



第19回

住まい備忘録

(社)日本建築家協会 沖縄支部 会員

比嘉 伝英

美音Space Design 様

デザインキーワードを引き出す

町並みは、人の住まいとしての住宅から始まり、

市場などの商業施設、様々な方が利用する公共施設、防災・医療などの緊急施設等の様々な用途の建物が存在し、それぞれを結び機能させる道路や橋、環境整備としての街路樹、公園などが絡み合い形成されています。また、歴史、文化、民族性などは、そこに住む人たちの集合意識として町並みの景観に大きく影響を与えるものです。

何かと何かが交差する部分が境界で、その境界をデザインすることが町並みを大きく決定する要因になっていると思います。

境界を薄めていく中で生まれる余白(空間)は町並みに潤いを与え、家と家との関係、人と人との関係を魅力的にするものです。境界意識をなく



庭(な一)を使っているイベント

境界をデザインすることの大切さ

するのは難しいことだと思えますが、薄めていく努力は出来るものだと信じます。

写真の名護数久田地区会館は、許田インターを降りて名護市街地に入る手前の集落にあります。(森の滝で有名です)年一度行われる豊年祭は村の子供からお年寄りを繋ぎ全ての世帯が

集う一大イベントです。その中でも青年団による棒術は慣習で必ず外の庭



名護数久田地区会館 庭(な一)全景

(な一)で行われ、観客、演舞者の一体感を演出するのに欠かせない場です。設計の段階でもその庭(な一)の位置づけは終始変わらず一貫したものでした。文化的にも歴史的にも、そこに居る人たちが大切にしたもの、当然豊年祭での重要な役割を果し、集落から庭(な一)、な一から公民館とやわらかく繋ぐ(結ぶ)処となりました。

我々(設計者)が境界を薄めていく役割になりえるには、そこに住む人たちの集合意識をよく理解し、その場にしかないデザインキーワードを引き出すのが大きな課題だと考えます。